

# 科学と人間 SCIENCE AND HUMAN シリーズ

科学・技術者が自分の言葉で語りかける、人類が手にした科学・技術の真実。それはどのように発展し、人間社会に関わり、どこに向かうのか。14冊を刊行した迫力のシリーズ。



平林 久  
**観測がひらく  
不思議な宇宙**  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-56-6

光学・電波・赤外・X線・ガンマ線・ニュートリノ・重力波そしてシミュレーション…、いまや「総力観測の時代」。観測の立場から宇宙像に迫る初めての著作！観測の発展で劇的に変化する宇宙観—半世紀にわたり日本の電波天文学の飛躍に携わった著者が宇宙観測研究の楽しさを臨場感こめて紹介し、宇宙の起源と未来、ダークマターの存在など奥深い不思議な宇宙の探求について語る。



金川 貴博  
**ありがとう、微生物たち**  
—生命を育み水を浄化する  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-62-7

微生物たちがいないと私たちの生活は成り立たない。資源とエネルギーの消費を抑えて、快適な環境をつくるには、私たちの健康な生活を支えている自然界での微生物たちの働きを理解して、有用な微生物たちを大いに働かせることが必要である。微生物とはどういう生き物なのかを知って、自然界の微生物たちを大切にしようという方向へ世の中をもっていってほしいと、著者は問いかける。



池内 了  
**大学の岐路**  
—大学の变容、原発事故、軍学協同をめぐる  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-66-5

資本の論理に絡め取られる大学と科学研究の現場。国立大法人化10年を経験から総括し、科学不正や軍学共同の拡大について考える。



館野 淳  
**シビアアクシデントの脅威**  
—科学的脱原発のすすめ  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-56-6

日本の全原子炉は軽水炉に分類される。しかしこれは「いざ」という時にブレーキが利かなくなり暴走する自動車と同じ欠陥商品なのである。それはシビアアクシデント（過酷事故）と呼ばれる。深刻な事故に至った原発の根本的欠陥を問い、原発の安全問題を科学・技術的につづつめる。



児玉 一八  
**活断層上の欠陥原子炉 志賀原発**  
—はたして福島事故は特別か  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-59-7

苛酷事故（シビアアクシデント）は能登で起こっていたかもしれない。原発の心臓部で次々と起こる事故。臨界事故は8年間も隔べい。住民と科学者の調査で活断層の決定的証拠も！原発問題に30年向き合ってきた経験から、原発のない日本をどう実現するかを提言。



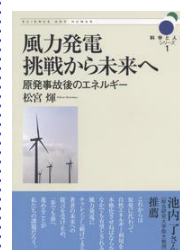
中村 俊  
**感情の脳科学**  
—いま、子どもの育ちを考える  
2500円＋税  
ISBN978-4-903722-63-4

大きな社会問題となっている感情や心の発達環境の現状に対し、脳科学は何かができるか。また医学、教育学、心理学、工学などの近接領域との連携で、脳科学研究者は何を果たしようとしているのか。「感情の脳科学」をキーワードに、愛着形成、報酬系、ミラーニューロン、身体性といった概念を取り上げ、その到達点と、新しい発達科学にもとづく発達支援の可能性に言及する。



歌川 学  
**スマート省エネ**  
—低炭素エネルギー社会への転換  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-67-2

地球温暖化や原発事故などのリスクがない、持続可能なエネルギーへの転換の技術的可能性と省エネ対策を考える前提として、何が最も重点とすべきか。エネルギー効率を上げてエネルギー消費量を減らす省エネルギー対策によって、将来の省エネ技術開発を待つのではなく、いま開発済みの技術を普及した場合でも大きくエネルギー削減できる。



松宮 輝  
**風力発電 挑戦から未来へ**  
—原発事故後のエネルギー  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-57-3

「3.11」に衝撃を受けた著者が、専門とする風力技術について基礎から総括し、今後の技術の方向性を論じる。大規模な洋上風力技術、小型風力発電機の自由で健全な市場育成、騒音など環境問題の解決策を示し、風車ももつ不安定性も電力系統に連係することによってメリットになることを解明。風力技術を生かすために不可欠な社会制度の変革についても提示する。



長井 寿・守谷 英明  
**アジアから鉄を変える**  
—新しい鉄の基礎理論  
2500円＋税  
ISBN978-4-903722-60-3

アジアから鉄を変えるための戦略を提唱する——地震、台風、海洋、高温多湿などアジアの自然環境に対応できる鉄鋼技術を探求し、軽くて強い、しかも錆び難い鉄素材を創造する著者らが、発生するスクラップだけで内需を満たして余りあるという日本の近未来状況を踏まえて、対話形式で熱処理の歴史と鉄の基礎物理、現場を語りあう意欲的な入門書。



功刀 正行  
**人間環境革命の世紀**  
—気候変動と人間の関わり  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-64-1

地球温暖化は、世界的には緊急課題として温室効果ガス削減へ大きく動き始めているが、日本では政府・産業界の対応が極めて消極的であり、あらためて国民的な議論が求められている。本書は、こうした課題にこたえ、地球環境問題とは何か、気候変動の原因は何か、そもそもから解きおこしつつ、地球史と文明史の両面から全面的に温暖化問題に迫った初めての通史。



吉井 英勝  
**国会の警告無視で福島原発事故**  
—再エネの爆発的普及で地域経済再生  
2200円＋税  
ISBN678-4-903722-68-9

事故5年前に吉井質問が地震・津波によって過酷事故が起きる危険性を警告したにもかかわらず引き起こされた福島原発事故。議員として約30年に及ぶ国会論戦にもとづいて、なぜこのような事故を起こしたのかを究明。このような事故・被害を二度と起こさせないために大本にある「原発利益共同体」と経済・エネルギー政策の根本問題を掘り下げる。



佐藤 康雄  
**放射能拡散予測システムSPEEDI**  
—なぜ活かされなかったか  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-57-3

放射能拡散予測シミュレーションを行う最先端システムSPEEDI。放射能拡散予測シミュレーションとはどんなものか？SPEEDIはなぜ機能しなかったのか、どう活かしていけばいいのか。原発事故から2年たった今、福島在住の気象学者が語る分析と提言。



立石 雅昭  
**地震列島 日本の原発**  
—柏崎刈羽と福島事故の教訓  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-61-0

2007年中越沖地震による東京電力・柏崎刈羽原発の被災は、世界でも初めての地震による原発被災であり、大量の放射能を放出する過酷事故にいたる可能性もあった。国や電力事業者がこの被災に真摯に向き合い、そこから教訓を正しく導き出し、対応を進めていけば、2011年3月の福島第一原発事故は防げた可能性が高いと著者は力説する。



岩佐 茂  
**生活から問う科学・技術**  
—阻害された工業化からもう一つの工業化へ  
2200円＋税  
ISBN978-4-903722-65-8

制御不能な産業技術は、我々の住む世界をどう変えたか。科学と技術はどう未来を描くのか。環境哲学者が生存のための技術革新を語る。

